横浜市立 中和田小学校　　令和5年度

# 中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

## 学校教育目標

「共に育つ中和田」
★かがやく目　【知】・自ら進んで学習に取り組み、粘り強く課題解決を図る子を育てます。
　　・豊かなかかわりを通して、自分の考えを深め、表現できる子を育てます。
★わかり合う心 【徳】・礼儀や規律を重んじ、自他のよさを認め合い、支え合う子を育てます。
★みつめる生命 【体】・自他の生命を大切にし、心身力を伸ばす子を育てます。
★つなぎ合う手 【公】・地域を愛し、積極的に社会にかかわり、貢献しようとする子を育てます。
★つくる未来　【開】・グローバルな視野をもち、持続可能な社会の実現に取り組む子を育てます。

| 教育課程全体で育成を目指す資質・能力 | 具体化した資質・能力 |
|---|---|
| 「自分づくりの力」<br>「共に高め合う力」の育成 | ・自分を大切にする（自己肯定感・自己決定力）<br>・自己表現力の育成（言葉で伝える　自分らしさの発揮）<br>・周りの人を大切にし、協し合う力<br>・より良いものを求める主体性と向上心<br>・自分の未来や持続可能な社会を考えた行動力 |

## 中期取組目標

「子ども一人ひとりを大切にし、誰もが安心して楽しく過ごせる学校づくり」
〇適切な児童理解をもとに子どもの自己有用感、自尊感情を育みます。
〇学ぶことが楽しいと思える教育活動を実践します。
　かがやく目 【知】自ら課題を見つけ、つかみ、解決する過程で、他の考えに触れ、自分の考えを広げ深めることを大切にします。「知をつくる」
　わかり合う心【徳】全教育活動を通して、自他のよさや違いを実感し、互いの可能性を信じ大切にします。「風土をつくる」
　みつめる命 【体】運動や食事の楽しさを味わう過程で、心と身体のつながりを考え、健康を大切にします。「元気をつくる」
　つなぎ合う手【公】まちのよさに触れながら、自分にできることを見つけ、実践する過程でまちと自分とのかかわりを考えることを大切にします。「社会をつくる」
　つくる未来 【開】出会う全てと心豊かに関わり、共感的に理解したり合意形成したりする過程で多様性に触れ、自分を見つめることを大切にします。「自己をつくる」

## 豊かな心の育成推進プラン

| 重点取組分野 | 具体的取組 |
|---|---|
| 道徳教育<br>担当　道徳・人権指導 | 道徳の学習と各教科の授業や学校行事等の結びつきを大切にし、全教育活動で自他を大切にする心情や態度を育み、誰もが安心して豊かに生活することを大切にする子どもを育てます。集団生活の中で協力し支え合うことの大切さを実感を伴って理解できるようにします。 |

### 豊かな心に関わる本校の状況

（1）豊かな心に関わる中和田小の児童の実態
　本校の児童は素直で、穏やかな児童が多い。責任感もあり、するべきことが分かれば最後まで一生懸命に取り組むことができる。全体的に落ち着いている児童が多くいる。一方で、自ら考えて行動しようとする意識は低い傾向にある。ルールを守れない児童も少ないながらもいる。挨拶も、教師側からすれば応えるが、自分からはできない児童が多い印象である。

（2）これまでの学校の取組状況
・「特別の教科　道徳」の授業を意識的に充実させ、日々の道徳授業を意識的に充実させた。授業参観では全学級の道徳授業公開を年1回以上実施した。
・児童の委員会が中心となり、挨拶を重点的に行う週間を設け、児童が自ら挨拶できるように取り組んだ。挨拶のみならず、しっかり返事をする習慣も身に付いてきた。
・Y-Pアセスメントシートを活用し、児童の実態把握に務めた。スクールカウンセラーによる研修により、教師の児童理解も深めた。
・人権週間では、人権ワークシート集や「見つけ　気づき　変わる」などの資料を活用し、発達段階に合わせた内容の授業を行った。
・中学校ブロックで子ども会議を開催した。自分たちの学区をより居心地のよいものにするために、6年生中心に話合いを行った。
・異学年交流のたてわり活動（なかよし活動）を行ってきた。月に1度ほどの中休み遊ぶ活動や、朝の時間に集まって遊ぶ活動をすることで、初めて出会う異学年の友達とも徐々に仲良くなり、笑顔で話す様子が見られた。

### 今年度の目標

①「特別の教科　道徳」を充実させ、道徳的実践意欲と態度、判断力、心情を高めていく。②なかよしペア活動（異学年活動）を充実させる。③自分の大切さ、他の人の大切さを認める人権教育の取組を推進する。

### 目標を実現するための具体的行動プラン

| | |
|---|---|
| 上半期 | ☆今まで行ってきた「なかよし活動」（異学年交流）を、今年から「なかよしペア活動」とし充実させていく。異学年のペアを決め、相手意識をもたせて、なかよし集会等を通して交流していく。この活動を通して、ペアの相手はもちろん学校の友達と仲良く過ごし、自己肯定感を高めていく。<br>☆児童の委員会活動を中心に挨拶運動を行っていく。日常的にも、登下校時や教室移動時などに挨拶する習慣を身に付け、挨拶することが常としていく。<br>☆授業のユニバーサルデザイン化に意識的に取り組み、「誰もが」「安心して」「豊かに」学習できる環境を整えていく。<br>☆道徳部を中心に情報を発信し、充実を図る。年に1度、保護者参観で授業を公開する。<br>☆Y-Pアセスメントを実施し、夏休みには研修を行い活用できるようにする。<br>☆人権研修を行い、職員の人権感覚を磨く機会とする。 |
| 下半期 | ☆人権週間では、人権ワークシート集や児童生徒向け資料集「見つめ　気づき　変わる」などの資料を活用して学習を進めていく。また、生命の大切さについて考える「いのちの学習」を各教科を通して行っていくようにする。<br>☆各学年の発達段階に応じた資料を人権担当が提示し活用できるようにする。（1年「ふわふわ言葉」2年「男女平等」3年「外国籍・多共生」4年「障がい者」5年「ネットマナー」6年「性的マイノリティ」） |

## 学力向上アクションプラン

| 重点取組分野 | 具体的取組 |
|---|---|
| 授業改善<br>担当　教育評価・重点研究 | 児童自身が学習の見通しをもち、主体的な学びとなるように授業改善に取り組みます。学習の中での自分らしい豊かな表現力を育成し、学び合いによる深い学びを目指します。個々に適した学び方を大切にし、基礎・基本の定着を図ります。自身の学びの振り返りを大切にします。 |

### 学力向上に関わる本校の状況

（1）学力に関わる児童生徒の実態
　全体的に見ると、学習意識、生活意識は市の平均に比べて高いレベルを保っている。「各教科の勉強は大切だ。」「勉強は生活に役立ち、将来のために必要だ。」と思っている児童が多い。学習意識と結果が結びついているとは言い難いが、その気持ちを大切にし、学習意欲を高めて、指導・支援していきたい。
　また、知識について、中学年では、市の平均レベルまたはそれ以上の結果が出ているが、思考力が低いという児童の実態との違いを感じる。また、高学年では、市の平均を下回っているが、極端にできない子は少ないものの、学力差が大きいことが分かる。教科によっては苦手意識を感じているところもあるので、進んで学習に取り組めるような手立てを考えていきたい。

（2）これまでの学校の取組状況（・課題）
　自分の考えを様々な形、場で表現する時間を十分にとるようにして学習指導を進めることや子どもの主体的な学びを引き出し、豊かな関わりを通して、自ら考え表現できる子を育てられるよう重点研究を進めてきた。
　学力向上に向けて、国語の「書く」や算数の「思考」に重点を置き、課題解決に向けた支援や系統的な指導がとれるように工夫する必要がある。中でも今年度は国語に重点をおき、子ども同士の学び合いの充実を図っていきたい。そして、自ら進んで学習に取り組み、粘り強く課題解決を図る力、豊かな関わりから自分の考えを深め、表現する力をはぐくむことを目指していきたい。

・繰り返しが自信へとつながり、しっかりと力をつけてきているが、日常とつながらない。
・語彙量が少ない。自分の思いをなかなか書けない。
・深く考えているのかもしれないが、表現力が乏しいため、分かりづらい。
・最後まで粘り強く取り組むことに難しさを感じる児童が多い。自力解決の過程がしっかりと定着していない。
・言葉の理解が乏しいので、自信をもって解決する場面まで到達できていない。
・自分の思いや考えを表現するに留まることが多く、相互に作用しながら主体的に聞き、互いの考えをつなぎ、関連付けていく力に課題がある。
・学び合いを紡いでいくための基礎的な言語能力の向上が必要である。

### 今年度の目標

言葉で思いをつなぎ、確かな自分を育み続けようとする子の育成
（具体的な姿として、①多様な考えと出会おうとする姿
②同じ思いでも違う表現、違う角度からの捉えに共感する姿
③一人ひとりのよさやもち味を肯定的に感じ、豊かな関わり合いをもとうとする姿）

### 目標を実現するための具体的行動プラン

| | |
|---|---|
| 上半期 | ○「聞く」「聴く」「訊く」ことに価値をもたせる<br>　考えながら「きく」ことを意識させることで、他者の考えを吸収したり、自分の考えを広げ深めたりできるようにする。<br>○学び合いを深める授業展開の充実<br>　子ども自ら課題を見つけ、つかみ、解決する過程で、他の考えに触れ、自分の考えを広げ深めていく経験ができるような授業を行う。<br>○ユニバーサルデザインの授業の充実<br>　発達障害にかかわる理論研修会を実施するとともに、どの子にもわかりやすい授業の在り方について考え、教育環境を整備したり、教材・授業展開の工夫を行ったりする。<br>○研修・研究会の時間の確保と内容の充実<br>　学年による研究・研修時間を週に1時間以上確保し、材の発掘や教材研究をさらに深める。<br>○国語科：基礎基本が定着するように計画的に丁寧に指導する。「書く」については、文章を書く機会を設け、実態に応じて指導法を工夫する。<br>○算数科：説明する機会や共有する時間を大切にする。ヒントを出したり、説明の仕方の例を提示したりして支援する。具体物の操作や体験的な活動を取り入れて、感覚を伴って理解できるようにする。<br>○社会科：学習課題を明確にし、課題解決のための資料の読み取りに力を入れる。<br>○理科：「実験課題」「予想」「実験方法」「結果」「考察」を順序立てて継続的に行う。 |
| 下半期 | ○上半期に設定した対策をもとに学習指導した途中経過をまとめる。<br>・各学年の実態から、取組の成果と課題を出す。<br>・実態を基に、縦のつながりについても検討する。<br><br>○宿題の系統化を行うことで、学習につないでいく。<br>・6年間を通じて、自分で学ぼうとする力を高めてくために、「自学ノート」の取り組みを実施する。<br>→途中経過等、学年内、学校内で情報を共有し、実態に合わせた手立てを考案していく。<br><br>○対策をもとに学習指導をした結果をまとめて、来年度に引き継ぐ。<br>※取り組んだものや作成したものを来年度も継続して行うことで、児童に定着できるようにする。<br>＜引き継いでいくもの＞<br>・学習カード<br>・振り返りカード<br>・ヒントカード<br>・話型<br>・漢字ドリルや計算スキルなど使用した学習資料<br>※学年が変わっても同じ指導ができるようにする。 |

## 健やかな体の育成プラン

| 重点取組分野 | 具体的取組 |
|---|---|
| 健康教育<br>担当　体育健康 | 保護者とともに「早寝・早起き・朝ごはん」を推進します。全校で学級づくり・体力づくりのため、短縄や長縄に取り組みます。心身ともに元気な子どもを育てます。①「早寝・早起き・朝ごはん」の一層の働きかけで心地よい生活を実感できるようにする。②体力アップの柱として、全校（全クラス）短縄や長縄、「みんなで外遊び」に取り組む。③保健・食育などの学習の充実のため、養護教諭・栄養士と連携し、学年に応じた学習の活動の展開を図る。④人権指導とともに性的マイノリティに関した指導や「いのちの学習」の充実を図る。 |

### 健やかな体に関わる本校の状況

　本校では、どの学年もほとんどの児童が朝食を摂取して登校している。しかし、少数ではあるが、朝食を摂らなかったり十分な睡眠を取らなかったりしている状態で登校している児童もいる。そのため、授業中に寝たり、集中できなかったりと心配な児童もいる。全校児童が、健康的で規則正しい生活を送ることができるようにする。
　近年、新型コロナウイルスの影響で運動不足が懸念されていた。少しずつ収束傾向にあるが、体力テストの結果は、全国や横浜市の平均より低いのは変わっていない。休み時間は、外で遊ぶ児童も多いが、さらに運動する機会を増やし、体力を高め、心身ともに健康な生活を送れるような工夫と環境づくりに努めるようにする。

### 今年度の目標

体力アップで健康維持！　～はばたく中和田っ子～

### 目標を実現するための具体的行動プラン

| | |
|---|---|
| 上半期 | ①「早寝・早起き・朝ご飯」を合言葉に規則正しい生活を家庭と協働しながら、継続的に取り組む。<br><br>②一校一実践運動では、短縄や長縄を通して、体力の向上に励む。年間1回の実施から回数を増やすことで、児童の目標に向けた取り組みができる。<br><br>③栄養士と連携しながら食育に関する授業を行う。<br><br>④担任を中心に、「いのちの学習」を組織的・系統的に実践していく。<br><br>⑤授業や日々の活動で、長縄を行い、体力向上につとめる。運動委員会で長縄集会の提案をし、1年間を通して実施する。 |
| 下半期 | ①安全な学校生活を送るために、学校保健委員の呼びかけによる各クラスの安全に関するテーマを設定する。<br><br>②体力・運動面での児童の実態を保護者と共有するために、体力テストや生活実態調査の結果を、お便りや個人面談等を使用して、伝えるようにする。<br><br>③後期から授業や日々の活動の中で短縄を行い、体力向上につとめる。持続可能なものとなるようにカードを作成し、各クラスや学年で取り組めるようにする。 |